

「患者様本位」を信条に、専門性を打ち出した医療をきめ細かに提供しています。



内視鏡検査治療の第一人者として、豊富な経験、実績を誇る青山伸郎先生。これまで自らが施行された検査数は、上部（食道・胃・十二指腸）3万例、下部（大腸）1万2千例（胆膵系）2千件にも達し、現在も休診日には顧問病院でESD（切開剥離）による癌の切除やERCPによる胆膵系内視鏡治療を継続しておられます。今年5月の開院以降、クリニックには専門領域を中心に、阪神間のみならず、大阪、姫路や兵庫北部方面からも多くの方が来院され、内視鏡検査は開院後2ヶ月で320件（上部187、下部133）、予約は3週間待ちという順調な滑り出しです。神戸高速鉄道の高速神戸駅上、オフィスビル5階にある青山内科クリニックを訪ね、先生の診療ポリシーや開業の秘訣をうかがいました。

略歴

1980年 神戸大学医学部卒業後、第2内科へ入局
1991年 理化学研究所つくばライフサイエンス研究センター奨励研究生
1992年 神戸大学第2内科助手
1998年 神戸大学医学部附属病院助教授・光学医療診療部（内視鏡部）部長
2007年5月 青山内科クリニック（胃大腸内視鏡/IBDセンター）開院
西宮市立中央病院医療顧問（内視鏡センター担当）
南大阪病院内視鏡センター顧問

Q 開院されてまだ間もないですが、すでに多くの患者様が来院されているようですね。

当クリニックでは、私自身の大学病院時代の経験を最大限に活かし、内視鏡検査治療やピロリ菌感染及び炎症性腸疾患の治療を中心に、微力ながら専門性を出した医療を提供しています。近隣の医療機関の先生方のご紹介はもちろん、口コミでの患者様が多くお越しいただいています。大学を離れる前の状況が厳しいものでしたので、検診センターからのルート開拓などにも努めましたが、大学勤務時代と変わらずこうしてご支援いただいていることを本当に感謝しています。

Q こうした専門性を出した診療科であって開業された目的は？

大学を離れる方向を決断しました際には、過分な病院職、薬学系教育職など多くの方に高配いただきましたが、ひとことという、「現場復帰」ですね。大学病院に限らず、ある程度の年齢になると、管理職としての役割が求められます。私も管理職であった上、2004年の8月から始まった神戸

大学医学部組織改編の経緯から、残念ながら現場での指揮系統を放棄する状況となりました。しかし、クリニックでは再び現場に戻り、すべての内視鏡検査を自らが施行する体制で臨んでいます。また、何より、大きな組織では実現できなかった「患者様本位のきめ細かな」医療を実践することを目指しています。時として必ずしも必要ではない場合もある、山のような要望書、会議、研究会、臨床試験から離れ、患者様にとってベストチョイスのみを提供するクリニックでの活きた時間に充実感を味わっています。

Q ターミナル立地の交通至便の場所にありますが、この場所を選ばれた理由は？

新規で開業するには、地域密着一般診療が専門特化のいずれかになります。当院のような専門特化クリニックの場合は利便性は不可欠ですが、専門特化の独立開業は設備投資も大きく、診診連携が重要であるため不確定要素も大きくリスクはより高いといえ、今までの専門性を出せたらと思いな

がら、なかなか踏み込めないのが実情ではないでしょうか？専門特化型独立として開院前のストレスは今までのどのような大きな学会発表の比ではなかったですが（笑）、常に過不足無く助言をいただいた（株）メディカルプロデュース 谷口 敏也氏を中心とした（株）エイコー 井上芳則氏 他、のサポートに心から感謝しています。

Q 「患者様本位」という治療方針は、どのように実践されていますか？

例えば、内視鏡検査は何度も通わないといけないので大変なのではないかと心配される方もおられるのですが、例えば大腸内視鏡検査の場合ですと、事前に下剤を送っておくといった対応をはじめ、ポリープが見つかった場合はその場で切除するなど、1回の検査で診断から治療まで完結することをめざしています。さらに、当院の検査の特徴として、上部・下部を同じ時間帯に検査することができ、両者で所要時間も約30分です。大腸検査は、治療まで含めると経験や技術はもちろん、リスクマネジメントも徹底する必要があります。特に外来で対

応可能な施設は限られているのが現状ですが、私のクリニックでは下部内視鏡が増加傾向にあり、一般的には2：1の上部・下部の比率も、1：1で推移しており、現在、平均して週に上部20件、下部20件、年間に換算すると各々1000件ずつ、計2000件ペースになっています。鎮静剤なしでも苦痛のない技術を有していますが、患者様のご希望に応じて、鎮静状態も3段階から選択していただいています。プライバシーに配慮した回復室を4部屋準備しているのもそのためです。また、検査スペースの床面は



すべてフラットにしているので、十分に鎮静した場合は内視鏡台ごと寝たまま回復室へ移動することも可能です。

Q 患者様へのきめ細かな配慮は、クリニック全体の雰囲気にもうかがえますね。



更衣室やお手洗いは男女別に。院内全体にクラシック音楽をBGMとして流し、患者様が快適に、リラックスして過ごせるよう努めています。小さなことですが、診察室の私の椅子と患者様の椅子はまったく同じものなんですよ。医師と患者が同等に話し合える環境も、クリニックには必要ではないでしょうか。

Q ロビーもとても広々として、贅沢な空間のように感じますが。

ロビーは、単に待合いという機能だけでなく、情報発信スペースとしてとらえています。私は10年来、炎症性腸疾患患者会「神戸IBD友の会」に関与してきたこともあり、患者様への情報提供や患者様同士の交流の大切さを実感してきました。ここでは、各種冊子や新着情報などを準備している他、今後は専門家による講習や患者様同士の交流会も予定しています。窓からは、湊川神社の全景が臨め、眺望も抜群。気軽な集いの場として、また憩いの場として活用していただけるとうれしいですね。

Q インテリアは、どのような点を重視されましたか？

恵まれたロケーションとの調和をポイントに、床や受付カウンター、照明などは木調で統一し、エコロジカルな雰囲気に仕上げました。ブラインドとソファには暖色を配し、ぬくもり感を大切にしています。インテリアについては、知人の建築士の方に多大なご尽力をいただきました。（糟谷



●入口や机上には豊富な資料が並ぶ。



●軽い鎮静の場合はソファタイプを選ぶことも出来る。点滴や血球除去療法もここで行う（左）ピロリ菌を呼気でチェック（尿素呼吸試験）できる測定機器（右）

真子さん 建築設計工房かすたねっと kasta-net-s@mbj.nifty.com)。私は、診療時間中はほとんど診察室と検査室を往復しているため、実際にロビーで患者様がどのように過ごしておられるのか、なかなか見ることができず、残念なのですが（笑）

Q 外来をしながら検査もされるといった日々の診療を効率よく行う秘訣はありますか？

大学病院にはなかった電子カルテを導入しました。このユヤマ社のBrain Boxは、まず1日分が視認しやすく、スクロールの煩わしさがありません。複数の予約も管理できるため、当院のような予約中心のクリニックでは、とても重宝していますね。また、ほとんどの検査会社のデータインターフェイスと適合性があり、検査会社の選択肢が広いことも気に入っています。他社製品では、検査会社を限定されてしまうこともありますから。

私のクリニックでは、紹介状を持って来院される患者様も多いのですが、そうしたアナログの情報もスキャナで取り込み、電子カルテで整理しています。幅広い情報を一括管理できる機能性はもちろんですが、最新の薬剤情報が定期的にアップデートされますので、使用量、配合禁忌、妊娠時の注意は勿論、外観の写真までワンクリックで表示される機能は非常に重宝しています。この薬剤の豊富なデータベース

はユヤマ社の長年の蓄積があつてのこととおうかがいしています。またレセプトへのコメントもきめ細かく入力でき、その重要性は開業してはじめて実感できると思います。いずれにしても「UNDO」機能ですぐに一つ前に戻れることで、「使いながら慣れる」ことができ、私も実際のところ開院数日前から対応したことは特筆すべきことと思っています。

Q このクリニックを通じて、今後どのような医療を提供したいと考えておられますか？

治療が多岐にわたる機能性疾患などにも、的確な内視鏡検査を含めた画像検査や多くの治療の選択肢を準備し、患者様ひとりひとりのQOL（Quality of Life = 生活の質）を向上させていきたいですね。



●北側窓からは、湊川神社が一望できます。

さらに、私は多忙な合間を縫ってテノール、指揮などの音楽活動を続けていますが、芸術と科学という右脳と左脳のバランスを取り、精神的なゆとりを持って患者様に接するとともに、質の高い治療につなげていきたいと思っています。

Q これから開業をめざす医師の方へアドバイスををお願いします。

自分自身の価値観に従って、残された人生の時間配分をしてほしいですね。独立開業は突極の成果主義ですのでリスクの高い選択ともいえますが、自分の持てる最大限のものを提供し続けるモチベーションの維持のためには成果主義の要素は必要と考えています。自己評価を前提に踏み出す新たな一歩にエールを送りたいと思います。



●神戸市中央区多聞通3-3-9神戸橋公前ビル5F
http://www.aoyama-clinic.com/